

日本教育社会学会第72回大会（オンライン開催）
発表資料

I－6部会「進路選択」

新型コロナ危機が顕在化させた人口減少下の
公立学校の脆弱性

—教育事象における格差概念の再定位を視野に—

- 西本 裕輝（琉球大学）
- 馬居 政幸（馬居教育調査研究所）
- 望月 重信（明治学院大学（名））
- 春日 清孝（明治学院大学（非））
- 藤田由美子（福岡大学）
- 角替 弘規（静岡県立大学）
- 遠藤 宏美（宮崎大学）

2020.9.5

目次

1. 沖縄と静岡の学力(西本)
2. コロナ危機と公立学校の脆弱性(馬居)
3. 授業モデルの対比によるリアルとオンラインの授業の特性と代替可能性(馬居)

はじめに

- 2020年2月27日：臨時休校を要請
- その後、約3カ月間続く
- この間、学校はさまざまな脆弱性を露呈
- 「オンライン格差」
- 学校間格差、地域間格差、「学力」格差（差異）
- 地域間格差（差異）に注目し、コロナ危機によって露呈した公立学校における脆弱性について検討しながら格差概念の再定位を試みる。

はじめに2:使用するデータ ～全国学力調査とは～

全国学力調査＝正式名称は「全国学力・学習状況調査」。子どもの学力低下が指摘される中、全国的な状況を把握し課題を明らかにする目的で、2007年から全国の小6、中3を対象として文部科学省が43年ぶりに実施しており、2019年度で**12回目**。**2020年度はコロナのため中止**。学力テストと生活状況を問う質問紙調査からなっている。全国の約220万人以上が参加しており、**現時点でもっとも信頼性の高い学力調査**である。沖縄の小学生は2014年度から最下位を脱出したが、中学生は最下位のまま。

1. 沖縄と静岡の学力 ～2019年文科省調査から～

(1)これまでの学力順位

表1-1) 沖縄県の子どもたちのこれまでの47都道府県中の学力順位

対象	科目／年	2007	2008	2009	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
小学生 (6年生)	国語A	47	47	47	47	47	46	32	32	21	42	43	5
	国語B	47	47	46	46	47	47	32	13	21	21	12	
	算数A	47	47	41	46	47	47	6	6	4	7	4	6
	算数B	47	47	47	47	47	46	34	26	11	12	12	
	理科	—	—	—	—	47	—	—	43	—	—	14	—
中学生 (3年生)	国語A	47	47	47	47	47	47	47	47	46	47	47	47
	国語B	47	47	47	47	47	47	47	47	42	47	45	
	数学A	47	47	47	47	47	47	47	47	46	47	47	47
	数学B	47	47	47	47	47	47	47	47	46	47	47	
	理科/英語	—	—	—	—	47	—	—	47	—	—	47	47

※文科省「全国学力・学習状況調査」をもとに作成

注1) 2011年は東日本大震災の影響で集計なし 注2) 2016年は熊本地震の影響で46都道府県中の順位

注3) 2016年の中学国語Bの42位、2018年の45位は同点最下位

注4) 2019年のからはA、Bの区分がなくなった 注5) 2019年は初めて中学において英語が実施された

表1-2) 秋田県の子どもたちのこれまでの47都道府県中の学力順位

対象	科目/年	2007	2008	2009	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
小学生	国語A	1	1	2	1	1	1	1	1	3	1	1	1
	国語B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	算数A	1	1	1	1	1	1	1	1	3	2	2	2
	算数B	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	2	
	理科	-	-	-	-	1	-	-	3	-	-	1	-
中学生	国語A	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	国語B	1	3	1	1	1	1	2	1	1	1	1	
	数学A	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2
	数学B	3	3	3	2	1	2	2	2	4	3	3	
	理科/英語	-	-	-	-	4	-	-	2	-	-	3	7

※文科省「全国学力・学習状況調査」をもとに作成

注1)2011年は東日本大震災の影響で集計なし 注2)2016年は熊本地震の影響で46都道府県中の順位

注3)2019年のからはA、Bの区分がなくなった

注4)2019年は初めて中学において英語が実施された

表1-3) 静岡県の子どもたちのこれまでの47都道府県中の学力順位

対象	科目／年	2007	2008	2009	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
小学生	国語A	11	25	20	32	32	47	24	15	6	35	38	17
	国語B	9	12	37	18	28	40	8	9	11	8	12	
	算数A	18	27	19	33	36	36	14	11	13	28	21	19
	算数B	16	19	22	24	24	36	17	17	10	12	18	
	理科	—	—	—	—	43	—	—	29	—	—	24	—
中学生	国語A	9	10	7	11	10	17	7	17	7	12	4	5
	国語B	4	7	8	6	14	13	8	6	3	6	4	
	数学A	9	5	7	8	5	14	5	8	8	6	9	5
	数学B	8	7	6	6	6	5	3	4	5	5	5	
	理科/英語	—	—	—	—	9	—	—	8	—	—	6	4

※文科省「全国学力・学習状況調査」をもとに作成

注1) 2011年は東日本大震災の影響で集計なし

注2) 2016年は熊本地震の影響で46都道府県中の順位

注3) 2019年のからはA、Bの区分がなくなった

注4) 2019年は初めて中学において英語が実施された

表1-4) 3県の子どもたちのこれまでの47都道府県中の学力順位
(2014年以降)

		沖縄						静岡						秋田					
対象	科目/年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2014	2015	2016	2017	2018	2019
小学生	国語A	32	32	21	42	43	5	24	15	6	35	38	17	1	1	3	1	1	1
	国語B	32	13	21	21	12		8	9	11	8	12		1	1	1	1	1	
	算数A	6	6	4	7	4	6	14	11	13	28	21	19	1	1	3	2	2	2
	算数B	34	26	11	12	12		17	17	10	12	18		1	1	2	3	2	
	理科	—	43	—	—	14	—	—	29	—	—	24	—	—	3	—	—	1	—
中学生	国語A	47	47	46	47	47	47	7	17	7	12	4	5	1	1	1	1	1	1
	国語B	47	47	42	47	45		8	6	3	6	4		2	1	1	1	1	
	数学A	47	47	46	47	47	47	5	8	8	6	9	5	2	2	2	3	3	2
	数学B	47	47	46	47	47		3	4	5	5	5		2	2	4	3	3	
	理科/英語	—	47	—	—	47	47	—	8	—	—	6	4	—	2	—	—	3	7

※文科省「全国学力・学習状況調査」をもとに作成

3県の特徴

- 沖縄→小学生：高、中学生：低
- 静岡→小学生：低、中学生：高
- 秋田→小学生：高、中学生：高（理想系？）

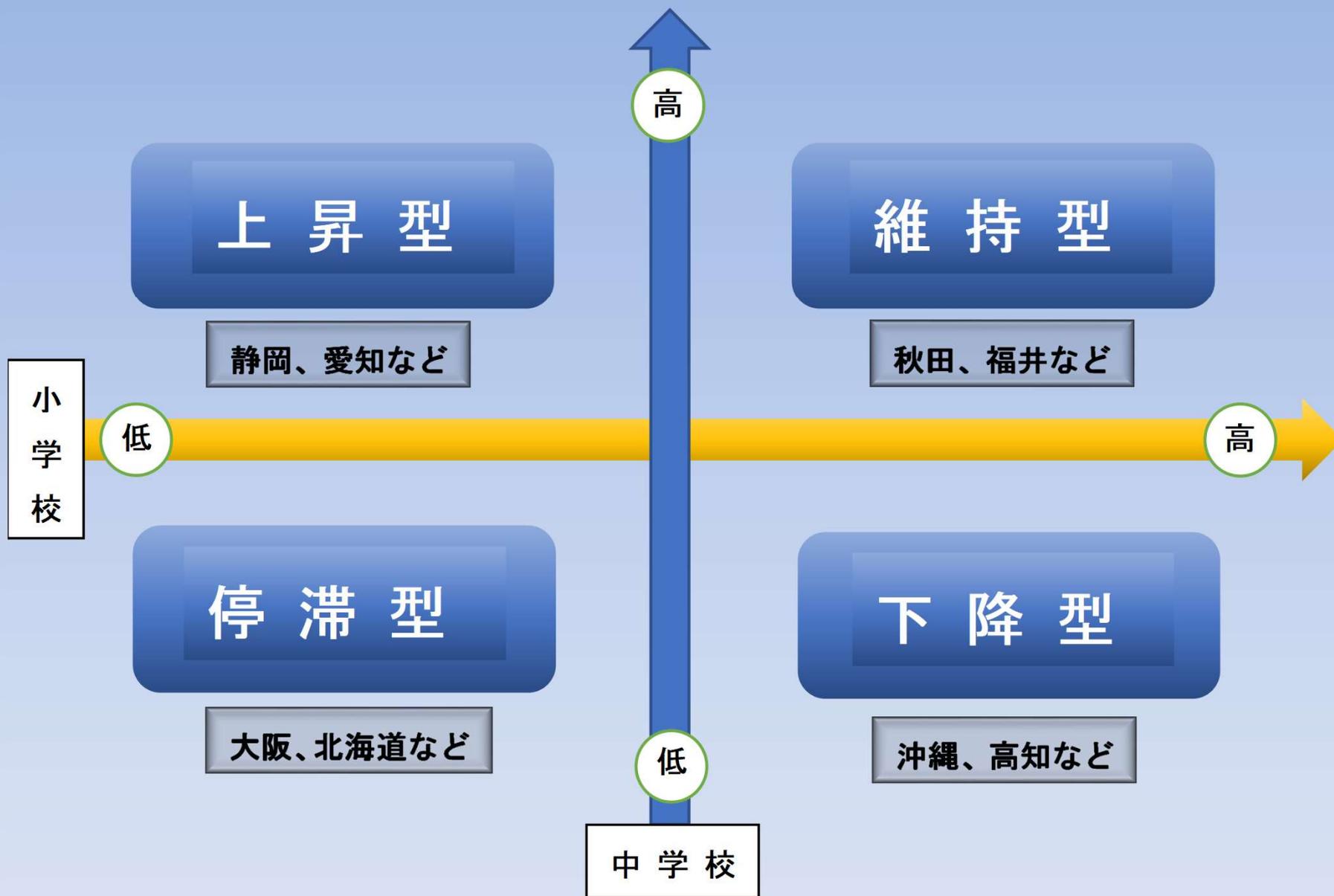


図1)小中の学力順位による都道府県タイプ分け

学力順位による都道府県タイプ

- 「維持型」・・・秋田、福井、富山、石川など
- 「停滞型」・・・大阪、北海道、以前の沖縄など
- 「下降型」・・・沖縄、高知など
- 「上昇型」・・・静岡、愛知など

(2)なぜ沖縄の中学生の学力順位は最下位を脱出できないのか

表1-1) 沖縄県の子どもたちのこれまでの47都道府県

真の学力向上に
なっていない

対象	科目/年	2007	2008	2009	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
小学生 (6年生)	国語A	47	47	47	47	47	46	32	32	21	42	43	5
	国語B	47	47	47	47	47	47	32	13	21	21	12	
	算数A	47	47	47	47	47	47	6	6	4	7	4	6
	算数B	47	47	47	47	47	46	34	26	11	12	12	
	理科	-	-	-	-	47	-	-	43	-	-	14	-
中学生 (3年生)	国語	47	47	47	47	47	47	47	47	46	47	47	47
	ひずみ? しわ寄せ?	47	47	47	47	47	47	47	47	42	47	45	
	数学A	47	47	47	47	47	47	47	47	46	47	47	47
	数学B	47	47	47	47	47	47	47	47	46	47	47	
	理科/英語	-	-	-	-	47	-	-	47	-	-	47	47

本来ならば平行
移動するはず?

ひずみ?
しわ寄せ?

少なくとも最下位
にはならないはず?

※文科省「全国学力・学習状況調査」をもとに作成

注1) 2011年は東日本大震災の影響で集計なし 注2) 2016年は熊本地震の影響で46都道府県中の順位

注3) 2016年の中学国語Bの42位、2018年の45位は同点最下位

注4) 2019年のからはA、Bの区分がなくなった 注5) 2019年は初めて中学において英語が実施された

- 小学生は最下位を脱出したが
- 中学生は最下位のまま(12年連続)
- 真の学力向上になっていない
- 今の小学生の上昇は学校だけの努力

小学生だけ上昇した理由（仮説）

- 徹底した学校をあげたテスト対策
- 春休みの補習
- 放課後の補習
- クラブ活動の中断
- 4月の国・算の授業

中学生が上昇しない理由（仮説）

- 小学校ほど徹底したテスト対策ができない
（教科の壁）
- 春休みの補習ができない
- 放課後の補習ができない
（部活動が優先）

静岡モデル

- 静岡はこれといったテスト対策は行っていない
- にもかかわらず中学生で上昇
- 無理のない上昇？
- 小学校の授業で積み上げられた力？
- 格差(差異)、再定位

※西本裕輝：hirokin2199@gmail.com